

## 平成28年度 学校評価報告書(総表)

平成29年6月19日

1 学校の概要			
学校名	筑波大学附属高等学校	校長名	大川 一郎
幼児・児童・生徒数	727	学級数	18

2 教育目標等	
① 学校教育目標	<p>○自主・自律・自由をモットーとする。</p> <p>○全人的人間の育成という本校の伝統的教育精神を基盤として、知育・徳育・体育の調和をはかる。</p> <p>○教科教育においては、特に、体系的かつ基本的な知識、技能、態度の修得の徹底を期する。</p> <p>○特別教育活動においては、計画的、実践的、協力的人間の育成と生徒の個性の伸長につとめる。</p> <p>○生徒指導においては、生徒の個人的な現実の問題の解決を援助するとともに、将来の進路の開拓を指導する。</p>
② 学校経営方針	<p>教科教育、学校・学年行事、生徒会・クラブ活動を軸に、自主・自律・自由の精神で、生徒の心身の発達と個性の伸長を目指し、社会の発展に寄与できる国際的な視野を持った人材の育成をおこなう。あわせて筑波大学の附属学校として、教育実習や教員免許状更新講習への貢献、生徒の海外派遣を中心とした国際交流など、先導的教育拠点、教師教育拠点、国際教育拠点の3つの拠点構想を推進する。また、SGH指定校として将来、様々な課題の解決にあたることの出来る人材(「グローバルリーダー」「グローバルシチズン」)の育成に力を注ぐ。</p>
③ 重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 自主・自律・自由の精神に根ざした教育活動の展開。</li> <li>2 SGH指定校として、「SGHプログラム」と「SGHスタディ」の円滑な推進と生徒主体活動の充実。</li> <li>3 外部への教育活動の発信。</li> <li>4 危機管理意識の向上。</li> <li>5 学校の財務運営状況の点検と見直し。</li> <li>6 桐陰会館の使用範囲の拡大と運営形態の充実。</li> </ol>
④ 前年度の成果と課題	<p>前年度の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「小中高一貫カリキュラム」作成において各教科の内容をまとめ、「四校研」において発表を行った。</li> <li>・「SGHプログラム」として新規にUBC研修を実施。大学と協力して効果測定を行った。また、第1回「SGH活動報告会」を実施し、SGHへの全校での取り組みを発信した。</li> <li>・桐陰会館の使用頻度の向上が図られ、様々な取り組みに利用された。</li> </ul> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の財政状況と施設設備の改善。</li> <li>・SGHの取り組みの充実と「スタディ」の完全実施。</li> <li>・教育活動の発信の工夫。</li> <li>・危機管理の再確認と校内の安全点検。</li> </ul>

### 3 重点目標達成についての総括的評価

重点目標に関しては、ほぼ達成できたといえる。

**【1. 2. 3】**特に「SGH」に関しては3年目を終了し、「概ね良好」との文科省からの中間評価を得、学校全体として全教員で取り組んだ成果の結果と捉えている。また、本校で長く取り組んでいる、生徒の思考過程を重視した教育は、新教育課程や大学での新しい入学選抜において重要視され、歴史的に取り組んでいるアクティブラーニングも、注目され始めた。「外部への教育活動の発信」も様々な形で実施したが、今後もさらに発信の必要性を感じている。

**【4. 5. 6】**全教職員への危機管理の徹底を図り、迅速かつ慎重な対応を求めた。年々財源が減少していく中で、項目立ての見直しを行い、経費節減を求めた。しかし、これ以上は節約できない部分もあり、今後の運営の厳しさを感じている。桐陰会館の利用範囲は拡大し、有効利用が見られ、十分目標を達成することができた。

### 4 来年度の学校課題

1. SGHの取り組みが4年目に入り、具体的なエビデンスで効果を図る。
2. 新教育課程に向けた対応の検討
3. お茶の水女子大学附属高校との「キャリア教育プログラム」の開発・実施。「提携校進学制度」の確立。
4. 外部への教育活動の発信の継続。
5. 危機管理意識の向上。
6. 学校の財務運営状況の点検と見直し。

### 5 学校課題に向けての具体的な取り組み

**【1】**SGH効果測定の指標を作成し、全校生徒・教員へのアンケート実施。(7月)

**【2】**全教員での校内研究会を実施し、具体的取り組みについて意見交換をし、共通認識を持つ。

**【3】**お茶の水女子大附属高校との「キャリア教育プログラム」として、両校生徒を対象とした「キャリアカフェ」の実施。

「提携校進学制度」の具体的内容の発表。

**【4】**様々なツールを利用した、積極的な発信方法の継続検討。

**【5. 6】**28年度からの継続課題として、情報伝達の迅速化、財政面での節約と適切な配分。